国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

記者発表資料

令和５年１０月３１日
東 北 技 術 事 務 所

体験型実習施設の利用が好調です！
利用者からも好評をいただいています！

～体験型土木構造物・河川堤防等実習施設　令和５年度上半期の利用状況～

人材育成支援の一環として展開している『体験型土木構造物実習施設』の利用者は、昨年度上半期と比べ約１．５倍に増加し、コロナ渦前の状況に順調に回復しています。（令和５年度上半期利用者数 706名）　また、『体験型河川堤防等実習施設』の利用者は、昨年度上半期と比べ、約２．２５倍と大幅に増加しました。（令和５年度上半期利用者数 363名）

利用者から好評をいただくとともに、リピート利用や県外遠方からの来場も多く、コンクリートの品質管理・検査及び河川管理施設の点検・評価などの技術力向上に寄与しています。

〈土木構造物施設〉リピート利用団体の割合 50.2%　県外利用者 53.0%

〈河川堤防等施設〉リピート利用団体の割合 18.3%　県外利用者 54.9%　※令和５年度上半期集計

国土交通省東北技術事務所では「技術支援」「人材育成支援」「災害対策支援」の３つの支援をもとに、東北管内の事務所や自治体と、建設技術とをつなぐ絆となり、社会資本整備を支えるための取り組みを行っています。

その人材育成の活動の一環として、実物を見て理解を深めることができる施設「体験型土木構造物実習施設」と「体験型河川堤防等実習施設」を利用した様々な研修、講習会を行っており、次世代の技術者等に継承するべく人材育成と技術向上に努めています。

《体験型土木構造物実習施設とは 》
コンクリートの施工不良を再現した橋梁下部工などの構造物が実物大で製作されている実体験施設です。
《体験型河川堤防等実習施設とは 》
堤防等の異常箇所（変状）が常に確認できるように不具合を再現した実物大の河川管理施設です。

※詳細については東北技術事務所のホームページをご覧ください。どなたでも無料で利用できます。

発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会

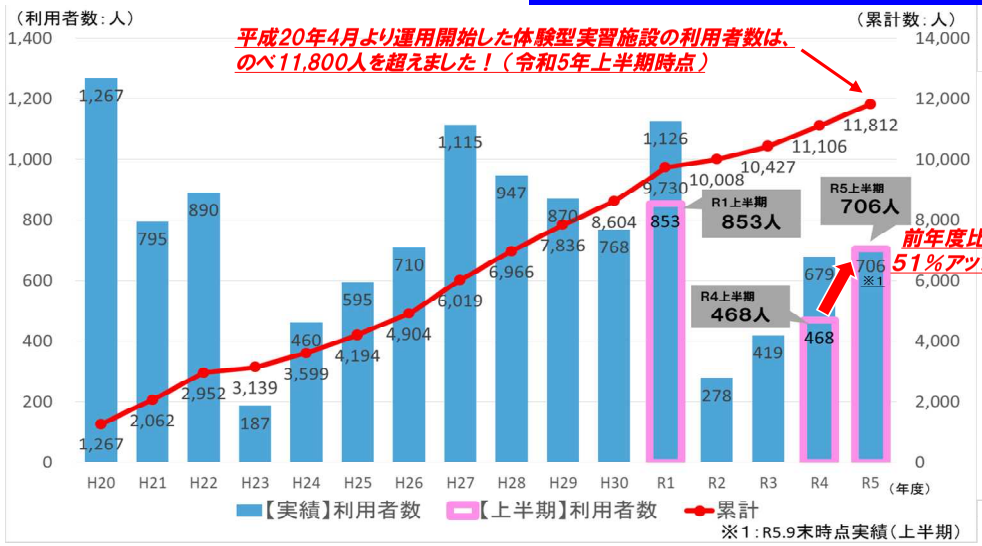
【お問合わせ先】国土交通省 東北地方整備局 東北技術事務所
〒985-0842　多賀城市桜木３丁目６－１
Tel０２２－３６５－８２１１
東北技術事務所 総括技術情報管理官　　佐藤　禎夫（内線：３０１）

《体験型土木構造物実習施設》 令和5年度上半期の施設利用状況

東北技術事務所

■平成20年4月から運用開始した『体験型土木構造物実習施設』の利用者数は、のべ11，800人を超え、今年度の上半期においては、昨年度（R4上半期ベース）と比べ、約51%アップの利用者数と順調な伸びを示しています。新型コロナウィルス感染症対策としての行動制限が緩和され、県内外・産学官の多くの団体が来場し、体験型実習のニーズの高さが反映されたものと考えられます。
■繰り返し申し込み・実習されるリピート利用の団体や、遠方（県外）より時間をかけ来場される団体も多数、見受けられます。
■東北地方唯一の実習施設、コンクリート構造物等の不具合再現モデル（リアルな不具合・欠陥を間近に見られる）を教材とし、知識とスキルを若手技術者等に身に付けたいと考える派遣元の人材育成担当者（民間企業・官公庁等）の関心と満足度の高さがうかがえます。

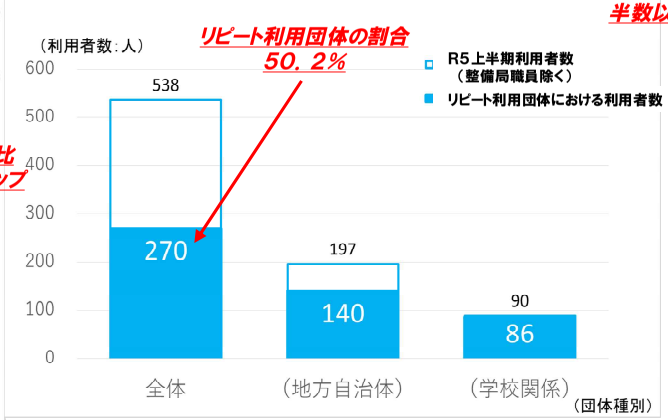
令和5年度上半期 体験型土木構造物施設の利用者数の推移等



●体験型土木構造物実習施設の利用者の推移

※H20～R4集計対象期間：年度（当年4月～翌年3月）

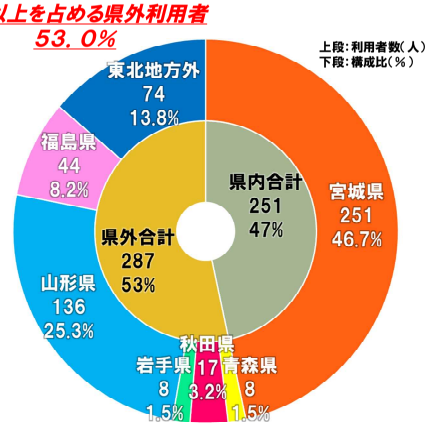
R5施設利用者数は、昨年度と比べ、約51%増加（上半期ベース比較）。また、ここ10年で最も利用者が多かったR1（新型コロナウィルス感染拡大直前）の8割強まで回復（上半期ベース比較）。利用者数は全体的に増加傾向、順調な伸びを示している。



●リピート利用団体における利用者数（職種別）

※対象：R5上半期　※リピート利用団体：過去1回以上利用した団体

地方自治体・民間企業・学校関係全体総数に占めるリピート利用団体の割合（利用者ベース）は50．2%。繰り返し申し込みされる団体も多く、好評を博していることがうかがえる。



●利用団体の拠点別内訳

※対象：R5上半期、地方自治体・民間企業・学校関係

県外の遠方や他県から足を運んで頂いた利用者が半数以上を占め、ニーズの高さがうかがえる。※東北以外の来場者は約14%

実習を終えた利用者及び 派遣元の人材育成担当者の感想

利用者の声

大変有意義な実習だった！
やる気、モチベーションが高まった！
学んだ知識をどう活かすかを考えることができた！
百聞は一見にしかず！
今後も継続して利用したい！

・これまでコンクリートに関して深く学んだり、考えたりすることがほぼ無かったのでこの機会に学ぶことが出来て良かった。この研修で学んだことを、今後、存分に活かしていきたい！
・多くの気づきを与え、今後に役立つ大変、効果のある実習を研修生（職員）に提供できた。
《地方自治体（県）職員及び育成担当者》

・不適切施工をすることで、品質にどのような影響が出てくるのか実際見て、触れて、とても考えさせられ身の引き締まる体験でした。私たちの仕事は形に残る仕事ですが、かっこいい・綺麗なものほど努力した証だと思われる仕事だと改めて感じさせられ、一層やる気が出てきた！
・自身の知識やスキルが向上し、モチベーションも高まった！
《土木施工業者 社員》

・実物が目前にあり、文献・講義等によるイメージをするよりもはるかに理解しやすかった。社内の座学より明らかに記憶に残る1日となった。施工不良の要因となる行動を見落とさないようにするのが自分の仕事だと認識した。
・百聞は一見に如かずというのが感想。
《土木施工業者 社員及び育成担当者》

・初めて利用したが、大変有意義な実習施設であった。若手職員育成の一環として、詳しい解説を、実物を見ながら説明頂いたことは、若手社員の知識・技術力の向上に非常に役立つものであり、今後も若手社員教育などに継続的に利用したい。
《建設コンサルタント 育成担当者》

・設計業務に従事しているため、施工品質向上のための現場での取組みを知ることができ、非常に参考となった。鋼、コンクリートそれぞれの特徴や性質を分かりやすくご説明いただき、橋梁の理解を深められた。箱桁内部に入る機会もないので、とても貴重な経験をさせていただいた。
《建設コンサルタン 社員》

・どのような施工は「良いのか」「悪いのか」、何をしなければいけないのかを知っておくことで、これからの仕事に活かしていけると思った。施工する上で品質向上につながることは引き続き行い、新たな工夫をしていくことも大事だと認識した。
《土木施工業者 社員》

施設利用者数は、着実な増加（回復）傾向を示し、品質に対する理解もより深められています。今後も利用者のニーズにマッチした実習を継続的に提供していきます！

《体験型土木構造物実習施設》 体験実習の様子

東北技術事務所


表層品質と耐久性


不適切施工（函体工）


橋梁上部工（箱桁の構造等）

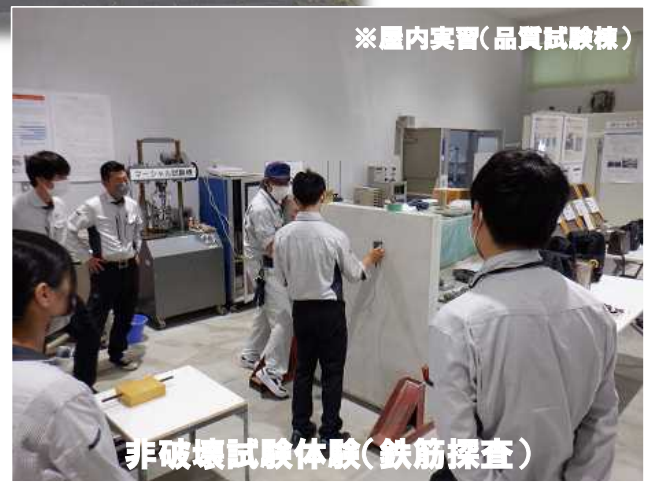
リアルな不具合を
間近で見て・触れて・
考える実習生


《体験型土木構造物実習施設構内　全景》

不具合・欠陥構造物
から教訓学ぶ実習生


構造物の配筋（鉄筋かぶり等）


不適切施工（下部工）


※屋内実習（品質試験棟）

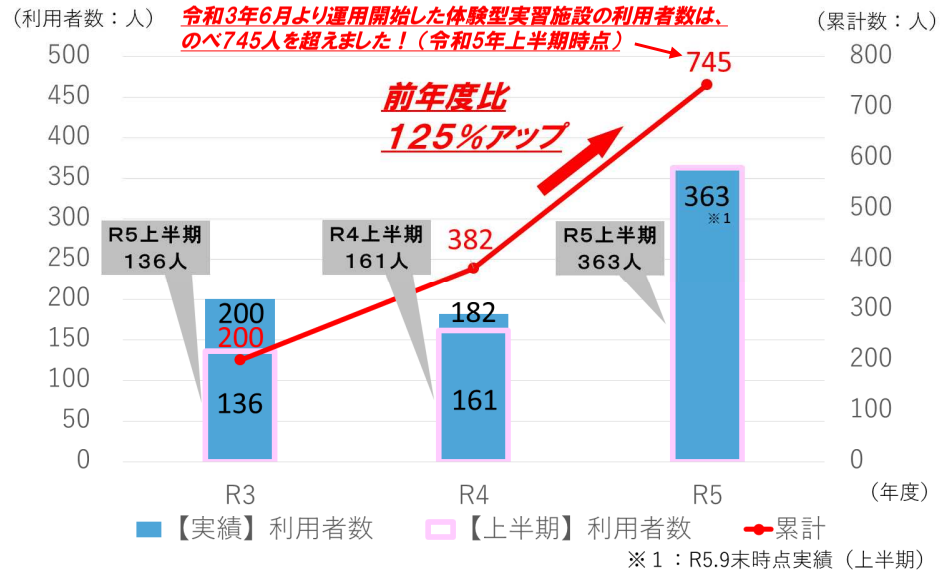
非破壊試験体験（鉄筋探査）

《体験型河川堤防等実習施設》 令和5年度上半期の施設利用状況

東北技術事務所

■令和3年6月から運用開始した『体験型河川堤防等実習施設』の利用者数は、のべ745人を超え、今年度の上半期においては、昨年度（R4上半期ベース）と比べ、約125%アップと大幅な伸びを示しており、運用開始以降、最も多くなっています。新型コロナウィルス感染症対策としての行動制限が緩和され、県内外・産学官の多くの団体が来場し、体験型実習のニーズの高さが反映されたものと考えられます。
■東北地方で唯一の実習施設、河川堤防等の変状再現モデルを教材とし、点検技術の知識とスキルを若手技術者等に身に付けたいと考える派遣元の人材育成担当者（民間企業・官公庁等）の関心と満足度の高さがうかがえます。

令和5年度上半期 体験型河川堤防等実習施設の利用者数の推移等

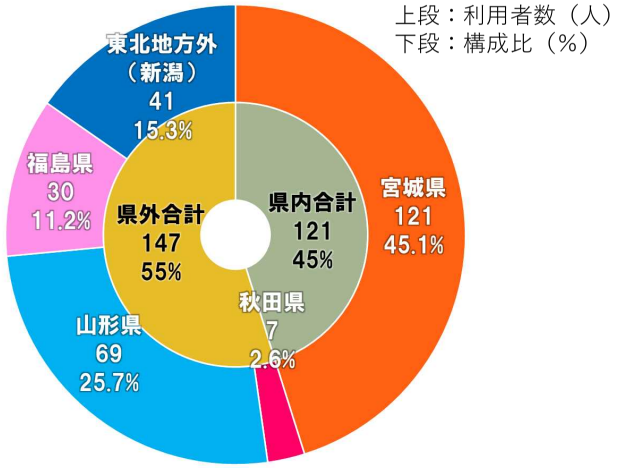


※1：R5.9末時点実績（上半期）

●体験型河川堤防等実習施設の利用者の推移

※R3～R4集計対象期間：年度（当年4月～翌年3月） ※R5集計対象期間：上半期（当年4月～9月末）

R5施設利用者数は、昨年度と比べ、約125%増加（上半期ベース比較）。
利用者数は全体的に増加傾向、順調な伸びを示している。



●利用団体の拠点別内訳

※対象：R5上半期、地方自治体・民間企業・学校関係

宮城県外からの利用者は4割程度を占め、県内外から多くの団体が受講している。※東北以外の来場者は約11%

実習を終えた利用者及び派遣元の人材育成担当者の感想

利用者の声

実物を見ながら、効果的に学べた！

河川管理の重要性を再認識することができた！

実績的な実習で、点検方法を学ぶ良いきっかけになった！

堤防パトロールの際にどこを重点的に見れば良いのか、何が見つかればどんな対策を行った方が良いのか実物を見ながら学べたため、効果的に学べたと感じた。
《地方公共団体 若手職員》

今まで堤防を見ていても、特に何も感じなかったが、変形があることで、どのような影響があるのか分かった。 《建設コンサルタント社員》

説明内容や点検等に対する考え方、改めて重要なことだとわかりました。
今後も努力し取り組みたいと思います。 《建設コンサルタント社員》

自分がパトロールするときや業者にパトロールさせるときに重点的に見るよう心がけようと思った。また、樋門等の構造について学ぶ機会が無かったので今後に生かせるようにしようと思った。 《地方公共団体 若手職員》

管理河川だけではなく、法面管理にも活用できそうだ。《地方公共団体職員》

座学では、河川維持管理の現状や点検評価について、具体な事例を挙げて、わかりやすく説明いただき、河川管理の重要性を再認識することができました。また、現地実習では、堤防変状等を実際に測定する実践的な実習で、研修生の皆さんが点検方法を学ぶ良いきっかけとなりました。 《地方公共団体 研修担当者》

施設利用者数は、着実な増加（回復）傾向を示しており、堤防等の変状や点検の重要性の理解もより深められています。
今後も利用者のニーズにマッチした実習を継続的に提供していきます！

《体験型河川堤防等実習施設》 体験実習の様子

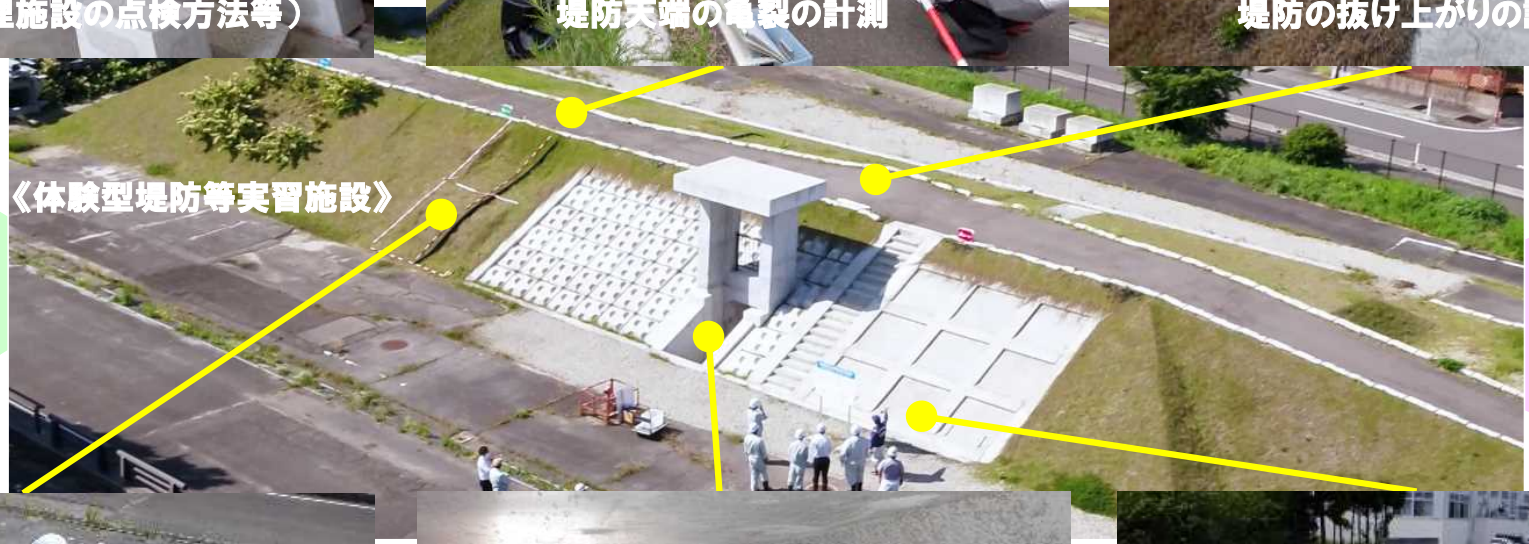
東北技術事務所


座学（河川管理施設の点検方法等）


堤防天端の亀裂の計測


堤防の抜け上がりの計測

リアルな変状を
間近で見て・触れ
て・考える実習生


《体験型堤防等実習施設》

発生要因や
計測方法を学ぶ
実習生


堤防法面の寺勾配･はらみ出しの計測



樋管の施工不具合と劣化について


打音による護岸の空洞化の確認